



ADAC GT MASTERSには R8 LMSを2台投入

マシンの開発段階から関わったというR8 LMS、ワークスではないが、ADAC GT MASTERSに2台体制で参戦。昨年はシリーズチャンピオンを獲得、今年は3位という結果だった。

R8 LMS

R8 GTS



エンジンのパワーアップとレボリューションのエアロパーツの追加が特徴的なR8 GTS。同時にエンジンチューニングをイメージをアップ。620馬力まで引き上げられ、エクステリアもカスタムされている。



Q3



— まだ正式に発表されていないコンバクトSUV、Q3をABTがすでにメイク。これはもちろんACGだが、完成度は高そう。ザ・ビートルでも同様にチューンドモデルの発表が予定されている。



ASI



— 1—上のR8 LMSと同じカラーリングで仕上げられたASI。エアロパーツとアスファルトアダプター、センター出しアフターワンドのダメージなど、デカールも増えている。



RS3



— A3シリーズの最強モデルRS3にもABTの手が加えられている。2.5ターボは470PS/630Nm(ノーマルは340PS/450Nm)にまで引き上げられている。スーパーホットハッチだ。



最古参の老舗ながら常に進化し続ける実力派
メルセデスやこのころのポルシェやカールソン、ロリンザー、BMWでいうところのACG(ミニツァーやハマ)に当たる有力なチューナーが、アウディには存在しない。そんな声を聞くことがあ。

それは完全なる間違いである。ドイツの南ケルンペテンに拠点を構えるABTこそ、彼らに並ぶメジャーチューナーなのだ。しかも創業115年という老舗中の老舗である。もちろんアウディのみではなくVWも重要なプロプライエタリーである。しかし、このころの「アウディ」を見ても、ABTがアウディに多くの力を注いでいることは明らかだ。

とくに彼らが得意とするキータースポーツでは、特筆すべき傾向が強い。ヨロバではF1に次いで人気の高いDTMにおいては、TT、A4とマシンを投入し、数多くの勝利を獲得。そして来期にはニーマンA5での参戦が決定している。

さらに言えば、アウディのカスタマイズポイント戦略を担うR8 LMSでは、マシン開発の段階から参画するなど、その存在感は確実にアウディ本体にまで浸透してしまっている。このあたりは、ポルシェやACG(ミニ

ツァー)が、メルセデスやBMWと密接している点も注目を集めている。このころのミニツァーやハマは、いわば「フルマーク」ではない。むしろ、一層の通り、新作が次々と発表されている。

最新作はA3スポーツバック。他びやかなボディをエレガントに仕立ててエアロスタイルが、実に美しい。ホイールは鍛造のDR。タービンのようにびわりを加えた細身のスポークと、その裏に控えるアンダーリムの組み合わさが豊かな表情を生む。コンプリートとして仕立てられたこのA3は、4ドアクーペというカテゴリーのドレスコードに見合った、品のあるシルラトで魅せてくれる。

その他にも、グレンスポーテに仕上げられたA1や、470PSを発揮するRS3、カポとメタリックファイナルのコントラストが華やかなコンプリートR8 GTSなど、そのどれもが、ABTのもつスポーティマインドを表現している。

さらに未だ市場投入されていないコンバクトSUV、Q3のABTバージョンも発表する予定。精神的にチューニングしを牽引。

キータースポーツと、アウトバウンドで鍛えられ実力派チューナーアウディ。アウディメイクの最古参として支持されたいですね。

アウディ・スポーツライン TEL.049-853-2222
www.abt-tuning.com
www.abt-sportline.co.jp

ABT



A7
— リップオーバーインサート、マフラーカッターと、最小限のメイクアップが施されたA7。ほんのわずかなディテールアップで、これだけエレガント・スポーティな姿となる。ホイールは21インチのDR



写真: Bernhard Widman/ABT 文: 斎藤生輝